

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、第三者評価の資料となります。第三者評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、第三者評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームたけだ遊友館
(ユニット名)	(さくら)
所在地 (県・市町村名)	兵庫県朝来市
記入者名 (管理者)	平野 由美 (計画作成担当者兼ユニットリーダー)
記入日	平成21年 2月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は第三者評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・入居者・家族・地域とともに歩むグループホームを目指すための運営理念の中に、「ご近所の方々とのふれあいや行事参加など、地域とのつながりを大切にする」「ご家族とのきずなを大切にし、これまでの生活が続けられるよう支援する」を掲げている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・地域密着型という意識は全職員がもっており、月に一度のユニット会議では意見交換や情報提供を行っている。毎月の”あったかサポート実践運動”で、理念実践の確認を行っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・運営推進会議や家族懇談会を実施し、理解していただけるよう取り組んでいる。グループホームだよりの作成、地元地区行事への参加、地元老人会との合同行事、見学者の受け入れなどで、理念の説明などを行っている。</p> <p>・家族には、契約時に重要事項説明書の中で説明している。</p> <p>・広報誌、ホームページに掲載していく。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・近隣への散歩では、積極的に地元住人への挨拶を行っているが、隣近所の方に気軽に立ち寄っていただけるまでにはいたっていない。</p> <p>・入居者の知人の面会は日常的に多くある。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・秋祭りなど地区行事に参加したり、地元保育園との交流や各種ボランティア(舞踊・尺八やアコーディオン演奏まど)の方々との交流を行っている。また、事業所主催の餅つき大会では、地元老人会や住民との交流が出来た。町の文化祭への作品出展も行った。</p> <p>・地元の小学校のリサイクル活動(ペットボトルの収集)に参加する予定である。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・認知症の理解を深めるために出張勉強会などを計画化していく。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・はじめての自己評価である。会議でその意義を説明し、全職員で自己評価を行った。	○	・外部評価を活かし、具体的な改善に取り組み、次の自己評価へと活かしていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・9月から2ヶ月に1回、地区長、民生委員、市職員、家族代表、所長はじめグループホーム職員が参加して行っている。諸報告を行い、各委員からでた意見を受け止め、取り組んでいる。次の会議でその結果報告を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市担当者に対して毎月利用状況の報告を行っている。 ・市担当者がGHの行事に参加している。 ・困難ケースなどは地域包括支援センターに相談するなど、専門機関との連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・管理者・計画作成担当者は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。 ・家族からの利用の相談に対応したケースもある。 ・日々雇用職員に対しての研修を実施する予定である。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者は法人内の研修、計画作成担当者は外部研修で学ぶ機会を持った。 ・全職員に対して高齢者虐待防止にかかるアンケート調査を実施し、意識の啓発を図った。また結果を踏まえて話し合いを持った。 ・あったかサポート実践運動のなかで具体的な評価項目を設けて、毎月自己点検をした。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・家族に対しては十分な説明を行っている。特にサービスの終了や事故発生時の対応、個人情報保護、重度化した場合における対応については詳しく説明するようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情受付窓口を設置し、福祉サービスに関する苦情・相談手順を定めている。 ・日頃の会話の中で、意見などを吸い上げるようにしている。 ・意見箱の設置については検討する。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・金銭管理は毎月、書面での生活状況は定期的に、他日々の状況に関しては、面会時、電話にて細かく報告している。 ・開設初年度であり職員の異動はなかった。	○ ・職員の異動や退職については、広報誌や家族連絡会を利用して報告していく。また面会時に個々に連絡していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時には必ず家族の話聞くようにしている。 ・重要事項説明書に苦情受付機関を明記している。 ・家族懇談会で出された意見を運営に活かしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ユニット会議や運営者との個別懇談で意見を聞く機会を設け、検討すべきことは検討し、改善している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・夜勤はユニット毎に配置し、緊急時に対応できる体制となっている。 ・職員の急な休みにも対応できるシフトとなっている。 ・利用者の要望に対して、出来るだけ対応するように努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・今年度は開設したばかりで異動はなかった。 ・退職者は3名(内1名は研修期間終了後退職)あり、利用者にはさりげなく伝えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法人内に人材育成基本方針があり、正規職員・嘱託職員は法人内外で研修を受ける機会がある。 日々雇用職員に対しては、開設までの1ヶ月間は手厚い新任研修を行ったが、それ以後の研修は十分でない。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 日々雇用職員に対する外部または職場内の研修を積極的にすすめる。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新任職員研修で近隣のGHで現場実習を実施した。 近隣のGHとは必要に応じて情報交換を行っている。 近隣のGH主催の研修会に参加している。 市内同業者間のネットワークづくりが検討されている。 		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個々の職員から意見を聞き、その都度助言している。 		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法人内に人事考課制度があり、それにのっとり行っている。 職員の意見や提案を聞き、働きがいのある職場づくりに取り組んでいる。資格取得や採用試験を受けるなど、各自が向上心を持っている。 資格保持者には、資格手当の支給または時給の上乗せをしている。 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 初回相談や入居前面接時は、できるだけ話を聞くようにしている。 		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 不安が少しでも軽減できるように傾聴し、信頼関係をつくるように努力している。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・すぐの入居が困難な場合は、他のサービスを説明するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居申込時に、見学がてら本人と一緒に来ていただくことをすすめている。 ・隣接するデイサービス利用者でグループホーム入居を希望されている方に関しては、時々訪問していただいている。 ・ショートステイ(現状では私的契約)を利用してから、入居していただくよう勧めていく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・人生の先輩として教えてもらう場面も多い。一緒に生活し互いに支え合う仲間と考えている。 ・炊事や農作業などを一緒に行う中で、生活の知恵を教えていただいている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族との会話を多く持ち、時に互いに協力し合って本人を支え、充実した生活を送ってもらえるように考えている。 ・家族懇談会を実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・これまでの本人と家族の関係を理解することに努め、入居後も関係がたもてるように働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知人の面会は自由にしてもらっている。 ・入居前の馴染みの店に行く機会を持っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・関係がうまくいっていない入居者間には、支援員が間に入ったり、場がかち合わないようするなどの配慮をし、良好な人間関係が保てるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退居後在宅に戻り、その後すぐに入院したケースがあるが、その後もグループホームでの生活が可能な状態ではないようであり、継続した関わりをもっていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプラン作成時には、1人ひとりの意向を尊重した生活を送ってもらえるように努めている。 ・日頃の会話の中から、より具体的な思いを言っていただけるように努めている。 ・入居時にセンター方式暮らしの情報シート of 記入をご家族にお願いし、生活歴の把握に努めている。普段聞きにくいことも記入していただき、ケアプランに活用している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時にセンター方式暮らしの情報シート of 記入をご家族にお願いし、生活歴の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・入居時には家族・担当ケアマネからの情報提供を元に、把握に努めている。 ・一人ひとりの生活リズムを大切にし、日々の記録、ユニット会議での報告・検討、必要に応じての調整などで、総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人や家族へは随時意向を聞き、反映させている。関係職員(担当支援員決めて)で意見交換を行い、介護計画を作成している。 ・看護師を含めて、関係者が一同に介してのカンファレンスを実施していく。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・期間に応じた見直しは定期的に行っている。 ・入院や介護度の変化はあったものの、状態に大きな変化が見られなかったため、介護計画を緊急で見直した事例はない。	○	・入院や介護度の変更が合った場合は、必要に応じて緊急の見直しを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護日誌に日々の様子などを細かく記録している。記録を引き継ぎに利用し、実践に活かしている。 ・記録をモニタリング、介護計画の見直し時に役立てている。 		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の多機能性(デイサービス、訪問看護、健康づくり・介護予防事業、軽食コーナー)を十分に活かしている。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や区長を通じて地域へグループホームについて周知していただくようにし、消防署とは合同の避難訓練を実施している。近隣の病院・他施設間での非常連絡網がある。各種ボランティアの協力をいただいている。 ・文化祭の演芸を見に行くなどの機会をもっている。 		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。 ・訪問マッサージを利用している。 		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター主催の研修会に参加している。 ・介護給付費の適正化や、ケアプランについて指導を受けている。 		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅時のかかりつけ医を継続し、受診は家族付き添いを基本とするも、家族の都合や緊急時などは支援員が付き添っている。 ・体調不良時には、かかりつけ医に電話で指示を受けている。 ・緊急の場合は協力医療機関へ受診している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医との連携を図る。 ・職員全員での方針の共有や研修が必要である。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医との連携を図る。 ・職員全員での方針の共有や研修が必要である。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・毎月行っている”あったかサポート実践運動”で意識付けを行い、徐々に定着してきている。(記録等の取り扱いの配慮、排泄誘導時や日々の言葉かけなど)	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・可能な限り自分の思い(買い物などの外出、食べ物の嗜好など)を表してもらい、その希望を重視することを第一としている。難しい場合には、一人ひとりに合わせた説明や声かけを時に繰り返し行い、納得してもらえるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりのペースを尊重しており、可能な限り希望にそえるようにしている。急遽の希望に関して難しい場合は、説明し日程調整などで変更するなどし、了承を得るようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・希望に応じて馴染みの店へ行かれる方(送迎をしてもらっている方も)や訪問理美容サービスを利用する方がある。毛染めも希望に応じてしている。毎朝、外出時の化粧、TPOに合わせた身だしなみも一緒に考え、時にアドバイスしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・各自の嗜好や体調に合わせた献立内容や調理方法を行っている。入居者と職員とで一緒に調理、盛りつけ、配膳、後片づけを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・基本的に希望にそうように努めているが、現時点でたばこの希望はなく、飲酒希望もほとんど聞かれないが正月などには提供した。飲み物やおやつは好みの物を購入して提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・介助を要する方は、時間やその内容をチェックし、一人ひとりの習慣を把握してトイレ誘導している。各自に合わせた物(パット、紙パンツ、紙おむつなど)を使用し、できる限り不快とならないように配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・声かけから水分補給までを一人の支援員が対応している。できる限り一人ひとりの希望に合わせた入浴を心がけ、拒否される方には無理強いせず(声かけを工夫する)、時に清拭や足浴で対応している。・季節感が楽しめるよう、ゆず湯やしょうぶ湯などを取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・就寝・起床時間の設定はしていず、一人ひとりの体調や希望に合わせている。必要に応じて午前・午後に休息する方あり。・冷暖房の調整、寝具・衣類の調整に努める。・薬を服用している利用者がいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・得意分野や興味のあることを活かしてもらうように、生け花・植木の世話・畑仕事・手工芸・料理・習字などに取り組み、張りのある生活を送ってもらうように心がけている。各種ゲームや歌をうたったり、散歩や外出で気晴らしをおこなっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自由になるお金を所持することで満足している方や、買い物など本人の判断で使っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天候・体調などを考慮し、できる限り希望にそえるようにしている。近隣への日々の散歩、買い物など。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・季節の行事やイベント、行き先など希望を聞き、日程や付き添い支援員などの計画をたて、可能な限り実行できるようにしている。家族の付き添いにて外出することもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を利用している方がある。他の方は、希望があれば電話・手紙共に支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・時間を決めることなく、いつでも自由に対応している。自宅で過ごす方、ホールで過ごす方、出かける方様々である。 ・職員も笑顔で対応するように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・現在対象者ないが、今後も研修などの機会をもつ。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室や日中玄関の鍵をかけることはしていない。 ・日頃から鍵をかけないように声をかけ合っている。 ・鍵をかけることへの弊害についての説明をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員間で連絡を取り合って安全の配慮に努めている。特に常時所在確認を要する方に関しては、プライバシーへの配慮をこころがけて職員間での連絡をより密に行っている。 ・他部署にもプライバシーに配慮しながら、協力を求めている。 ・門扉から出るとすぐ通行量の多い道路があるため、安全確保のために門扉のセンサー導入が検討されている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・グループホームという性格上、様々な物が目に触れる場所にあるが、状況に応じて置き場所などの検討を行っている。 ・薬に関しては、置き場所を考慮、もしくは職員が持参している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ひやりはっと、あったかサポートなどで毎月事例検討を行って事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・4月開所時に、普通救命講習を受講した。今後も定期的な受講を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・近隣の施設間で「福祉村災害時相互応援に関する申し合わせ」を定めている。 ・地域住民に対しての働きかけは行っていない。	○	・運営推進会議を通じて地域の消防団などに協力が得られるよう依頼し、地域住民を巻き込んだ訓練の実施について取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・契約時、またケアプラン更新時には説明している。 ・面会時にも説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・細かな変化、異変も互いに共有し、対応できるように連絡帳や記録に残している。管理者や看護師などの関係職員、家族への報告も徹底するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・すべてを理解しているとは言えないが、薬説明書をいつでも確認できるようにしておく。 ・服薬確認は細心の注意を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分量のチェックを行い、便秘気味の方には意図的に食物繊維の多い物を提供したり、排便チェック表をつけている。服薬調整や運動をすすめたりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・各自に応じた形での支援を行っている。入居までの習慣が大きく、ある程度その思いを尊重している場合もある。 ・義歯洗浄剤での支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・水分量をチェックしている。食事摂取量に変動のある方に関しては、食事内容、量もチェックしている。 ・変調がある場合は、連絡を取り合い、記録にも残すようにしている。各自に合わせた対応を行っている。 		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルあり、職員へ徹底している。 ・毎日の消毒実施中、マザーウオータールーム(除菌水生成噴霧器)、加湿器使用中である。 ・内外者共に手洗い消毒の励行、入居者・支援員共にインフルエンザ予防接種を行っている。 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・「調理従事者の心得」を目につくところに掲示している。 ・毎日買い物へ行き、新鮮な食材を使用している。 ・食洗機の使用で高温乾燥を行っている。 ・調理者、調理器具の衛生管理に努めている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・門扉を開放しており、建物は平屋建てのバリアフリー構造である。 ・玄関には花を生けたり、写真を飾り暖かみを出すように心がけている。 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共有空間は、時間帯によって音や光には配慮している。自然に囲まれた環境をいかせるように心がけている。 ・カーテンやよしずを利用して、日差しの調整を行っている。 ・季節に応じて置物を置いたり、花を飾るなどしている。利用者手作りの飾りを置いている。 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・デイコーナーとして見晴らしのよい窓際にイスや畳を設置したり、セミパブリックスペースをもうけている。希に一人で考え事をしている入居者があるが、ほとんどは食堂兼リビングに集まって、気の合う入居者同士で話をしたり、ゲームをして思い思いに過ごしている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に、出来る限り馴染みの家具や装飾品などを持ち込んでもらうように依頼しているため、各自の特徴が出た部屋となっている。 ・生活していく中でも、必要に応じて家族へ依頼している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・掃除・消毒・換気は毎日行っている。 ・におい対策を検討し対応している。 ・温度・湿度は細心の注意を払っている。個室は各入居者の状態に合わせている。 ・各居室に温湿度計を設置する予定である。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・全館バリアフリーである。 ・必要に応じて浴槽内に浴槽台を使用し、立位や座位の安定を図っている。 ・手すりにぐらつきが生じた際には、即座に対応した。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・入居者同士の会話や、職員が一人へ声かけることで他者が混乱することがあるため、声かけには細心の注意を払っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ウッドデッキや、外回りには植樹も多く、散歩をしたり畑や花を育てるなど活動の場がある。意欲的に活動している方や、ウッドデッキで外の空気を感じるなど一人ひとりに合わせた形で行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・昼食前には口腔体操を実施し、嚥下機能の維持に努めている。
- ・家族との連絡を密にとり、利用者と家族との関係が保てるように働きかけている。
- ・調理の手伝い・掃除・洗濯など、利用者の持てる力を発揮できるようにしている。
- ・脳リハ練習帳に取り組み、コミュニケーションを介しながら認知症の進行防止に努めている。
- ・健康づくり・介護予防施設（とらふず道場）に定期的に通い、身体機能の維持を図っている。